

脱 おんぶにだっこ

～利用者による利用者のためのクラウドシステム～



ながさき龍馬くん



住民と公務員との思考ギャップ(※私見です)

住民

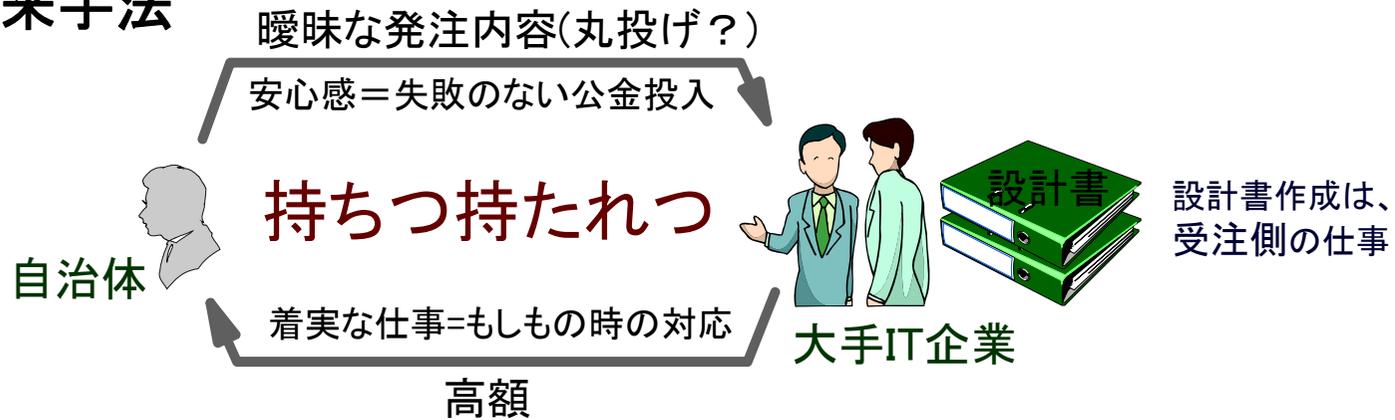
ちょっとした無理や失敗があってもいいから、長期で考えたときに納得できる施策であったり、安価になる方法を選択して!!

公務員

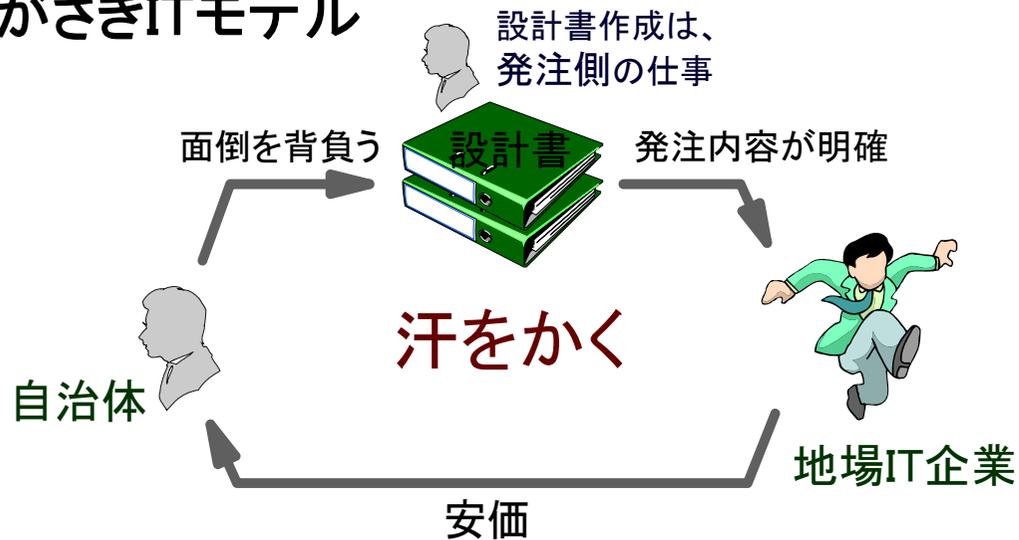
ちょっとしたミスにより、わずかであろうと損害を被る者があってはならない。そのために多少お金がかかっても仕方ないのではないか。

仕事のやりかたを変える

従来手法



ながさきITモデル



参入障壁を排除する

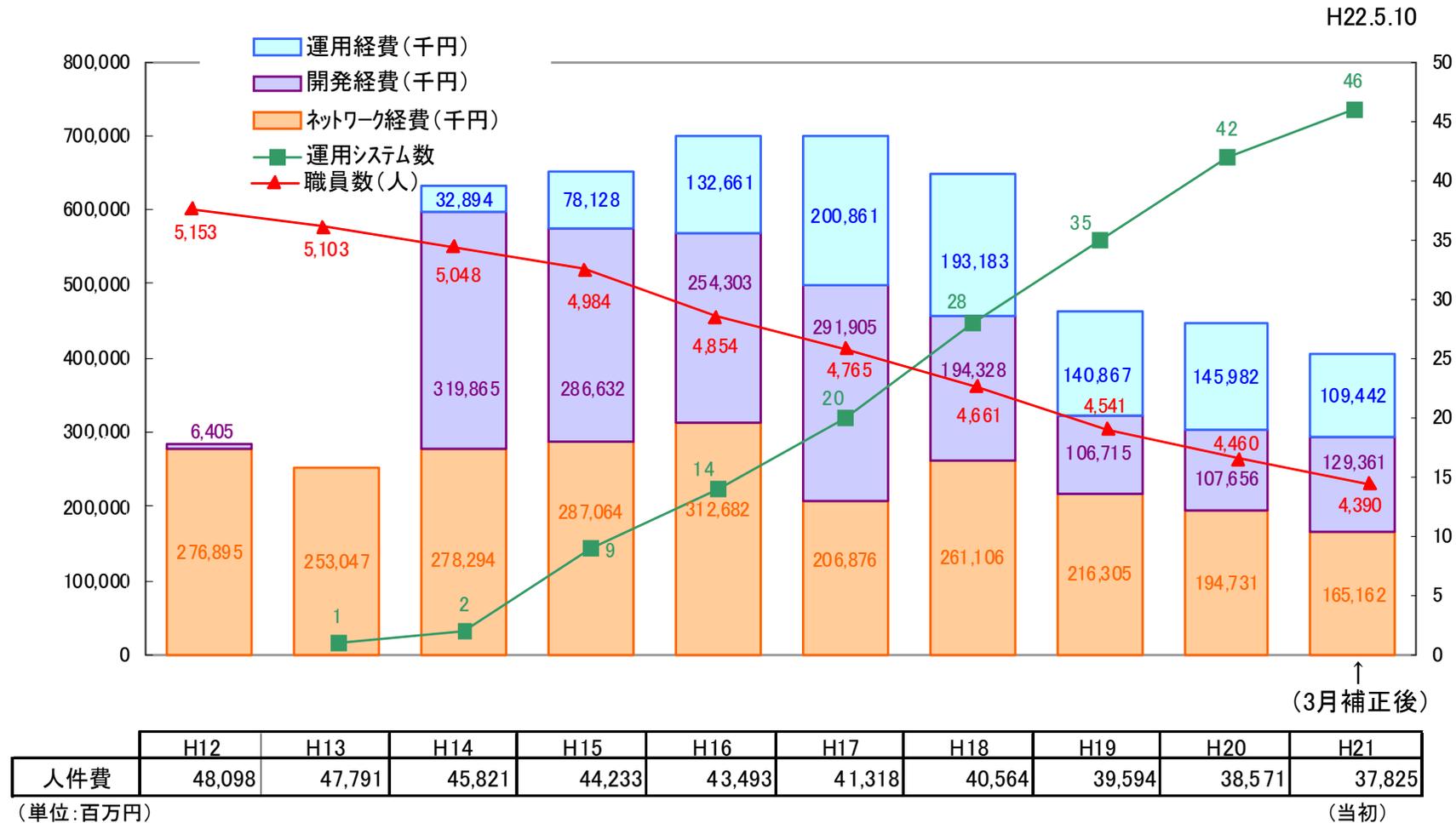
- ◆ 同規模システムの開発実績を問わない。
- ◆ オープンソースを用いる。
- ◆ 発注単位が500万以下になるように分割する。

やり方を変えたらこうなった(1)

地場IT企業への発注状況

	電子県庁システム		県庁全体
	件数割合	金額割合	
H13年度以前	実績無し	実績無し	—
H14年度	47.9% (23/48件)	15.2%	—
H15年度	48.1% (25/52件)	15.1%	—
H16年度	76.0% (73/96件)	32.7%	35.9% (546/1,520百万)
H17年度	75.4% (89/118件)	46.3%	42.7% (265/621百万)
H18年度	82.1% (55/67件)	69.8%	44.3% (343/774百万)
H19年度	89.6% (43/48件)	65.5%	43.9% (243/553百万)
H20年度	88.1% (59/67件)	72.2%	55.5% (372/670百万)
H21年度	95.5% (42/44件)	96.4%	59.9% (455/759百万)

やり方を変えたらこうなった(2)



職員が設計書を作成する手順

小さい仕事は失敗しない

[業務量の適切化]

1. 作業を分割し、職員が困らないサイズにする。
2. 少しずつ理解し、理解した部分の開発をする。

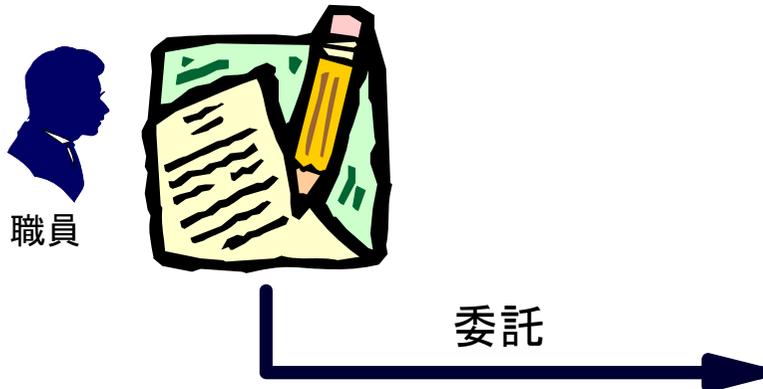
[業務の明確化とプロのサポート]

1. 仕事の流れをポンチ絵にするのは職員の仕事
2. 絵を綺麗な画面デザインにするのはプロの仕事
3. 仕事の流れを設計書にするのはプロの仕事

※ 自身に足りない技術を買うのは当たり前!!

第1ステップ

担当職員に作成するシステムの画面をラフスケッチでもいいから、自分なりに考え、書いてもらい、やりたい事がわかるようにする



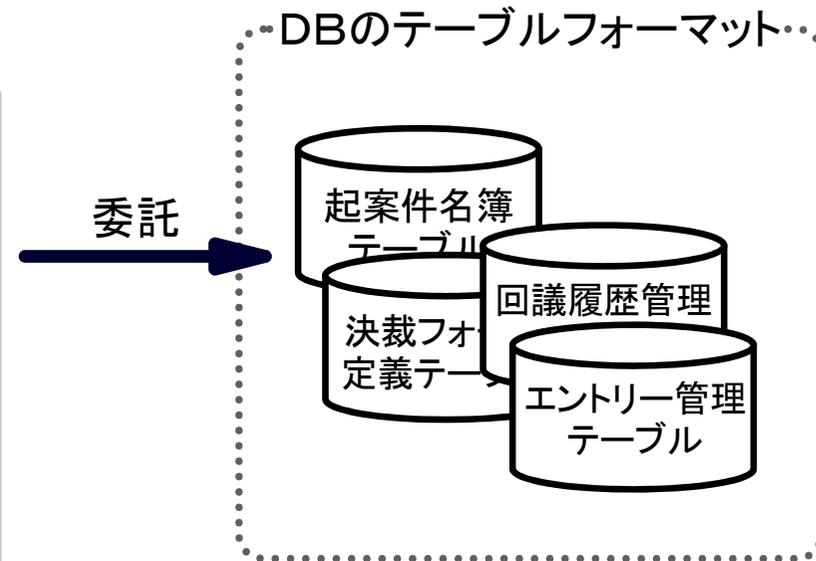
出来上がったら、WEBデザイナー等に頼んで、綺麗なデザインに仕上げる

改めて、周りの職員や関係部署に相談し、画面を詰める。必要なら再度デザインを委託する。

支	給料	調整額	教職調整額	管理職手当	扶養手当	調整手当	特手手当	順特手手当	通勤手当
	243500								
給	住居手当								
	3000								
	直日直手当								
控除金等	共済掛金								
	29088								
	公営貸付料等								
	243500								
支払額等	差引支給額								
	207522								

第2ステップ

画面デザインが固まったら、SE等に頼んでDBのテーブルフォーマットを設計してもらう。



フォーマットができあがったら、
「情報に過不足はないか」、
「必要な情報はすぐ取り出せるようになっているか」
確認する。

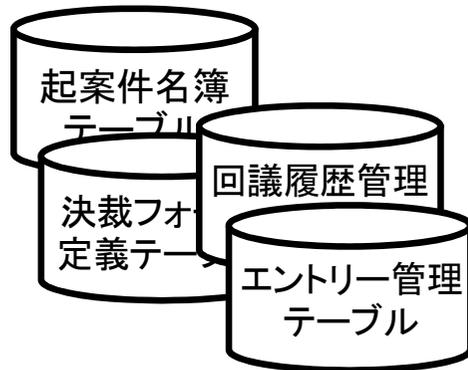
第3ステップ

画面デザインとDBテーブルが固まったら、SEに頼んで設計書(仕様書)を作成してもらう。

画面デザイン



DBのテーブルフォーマット



委託



設計書ができあがったら、入札にかけシステム開発を行う。

次のステップ

クラウド提供へ

同じものを使えばいいじゃないかとのご意見だが

共同化して安くなるのか

「割り勘にすれば安くなる」というが、参加者全員が満足・納得するようなシステムは○○○○○○○○○○○○○○○○○○ というのが現実だ

個々の自治体の思惑

小規模自治体・・・大きな自治体に付くことで○○○○したい。

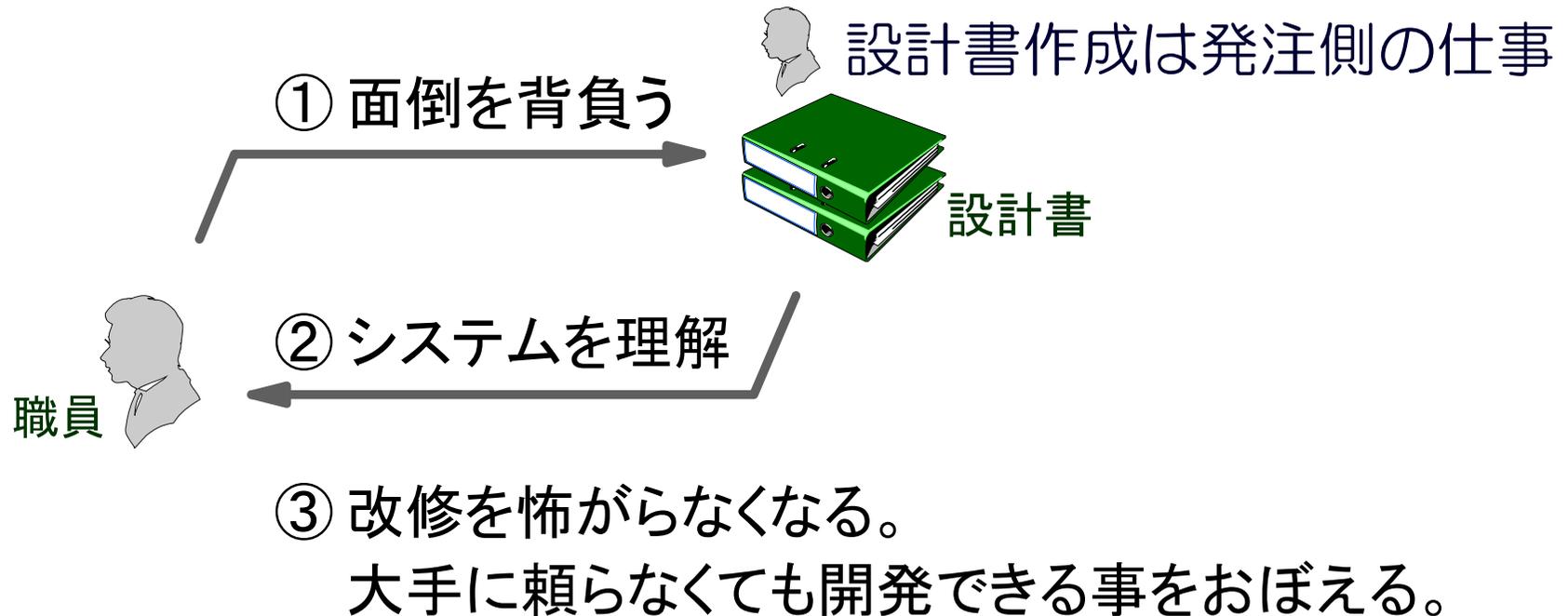
大規模自治体・・・小さな自治体の面倒で○○○○○○○○○○のは御免だ。

金を出すなら○○○○○○○○○○○○○○○○○○ というのが本音。

実施時期の違い

自治体毎に財政状況も重点施策も大きく異なるので、○○○○○○○○などの理由がなければ実施時期が異なるのは当然。

やりかたを変えると得るものがある

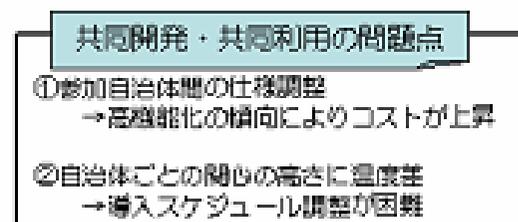
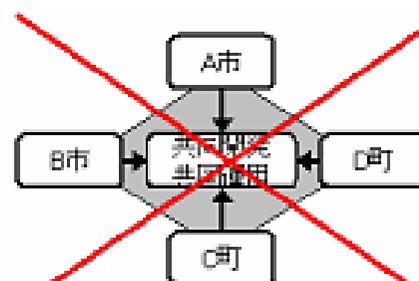


改修を怖がらなくなるとこんなことが始まる

- ① そもそも、公的個人認証を用いた申請が急激に伸びるわけがない。セミナーや講習会の申込などを行う簡易電子申請の方が利便性が高い。

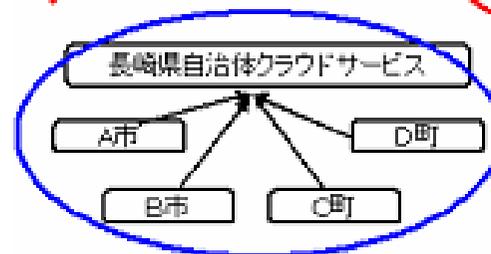
→ 電子申請に簡易電子申請機能を追加

- ② 機能追加すれば、他自治体と共用できるのではないかと。ただし、単純な共同利用方式だと市町村間の調整が難しいから、県がクラウドとして提供してしまえ。



- ③ 電子申請だけでなく、公共施設予約、電子決裁、グループウェアもクラウド化してしまえ。

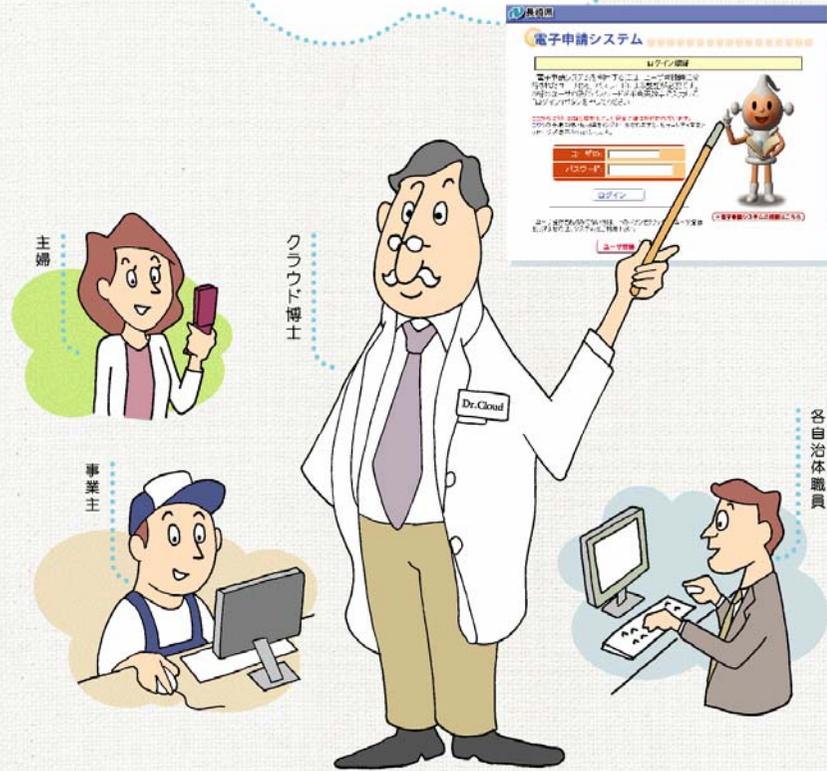
県内市町に止まらず、県外自治体への提供もいいのではないかと。



自治体の電子化を安く、手軽に実現！

長崎県自治体 クラウドサービス

Cloud Computing Service



長崎県

提供するサービスの概要

【電子申請システム・簡易電子申請システム】

簡単操作で、安全管理も万全！

- 24時間365日、いつでも自治体へ申請することができます。
- 申請は、申請画面に必要な事項を入力して送信するだけでOK。
- 申請情報は暗号化し、自治体間の通信にはLGWANを利用するため、データ流出や改ざんの心配がありません。
- 受け付けた申請情報は、PDFファイルやエクセルファイルで出力し、内容を確認します。
- 申請データについてはバックアップを行っておりますので、万が一データが消失した場合も復旧することが可能です。

簡易電子申請と電子申請の特徴

簡易電子申請

- ユーザ登録をする必要がありません。
- QRコードを読み取ることによって、PCだけでなく携帯電話からも申込みが可能です。
- 講座やイベント等への申し込みだけでなく、多数の質問項目をもつアンケートなどへの利用も可能です。

電子申請

- 事前にユーザ登録をする必要があります。
- 厳格な本人確認を行うための電子署名にも対応しています。
- 自治体が申請を受理する前であれば、申請情報を修正することができます。

【今後提供予定のシステム】

公共施設予約システム

- 24時間365日、いつでも携帯電話やPCから空き状況の確認、予約・予約取消等を行うことができます。
- 施設ごとに料金やコート割などを設定することが可能です。
- インターネットへの接続環境が整っている場合は、施設管理者が使用する管理者画面が利用できます。

提供開始 ●平成23年4月～(予定)

グループウェア・電子決裁システム

庁内ポータルサイトとして、主に以下の機能があります。

- スケジュール管理 ●お知らせ機能 ●各業務アプリケーションへのシングルサインオンなど

電子決裁システムの一連の流れは次のとおりです。

- 1.アプリケーションで起案文書を作成します。
- 2.あらかじめ設定した決裁順に従って回議します。
- 3.最終承認者の承認後、起案者によって施行を処理します。(完結)
- 4.施行処理後の文書は、文書保管システムで一覧表示され、起案件名や決裁日などで文書を検索することができます。

提供開始 未定



簡易電子申請?

電子申請?



私の考えるクラウド＝独立＋継続

- 他社ライセンスに振り回されるものであってはならない。
- クラウド提供者自身が、クラウドの最大のユーザーであるべき。
- 乗換困難であってはならない。
まして、ベンダー変更が難しかった大型汎用機のようにってはならない。

自治体が使うお金は、
企業がもうけるためのお金ではなく、
人を稼いでもらうためのお金、
人が育ち地域に益すること、
それが利益。